

## ミズスマシ *Gyrinus japonicus* Sharp

### 【選定理由】

かつては、県内全体に分布していたと考えられるが、急速に減少し、2000年以降の生息情報が乏しく、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつあると考えられる。

### 【形態】

体長 6.0～7.5mm。背面の光沢はやや鈍い。コミズスマシに似るが、大型（体長が 6 mm 以上）であることで区別できる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

名古屋市、豊田市、設楽町、瀬戸市、犬山市（佐藤，1990）など。かつては普通種であったため、詳細な分布調査はされていないが、県内全体に分布していたと考えられる。

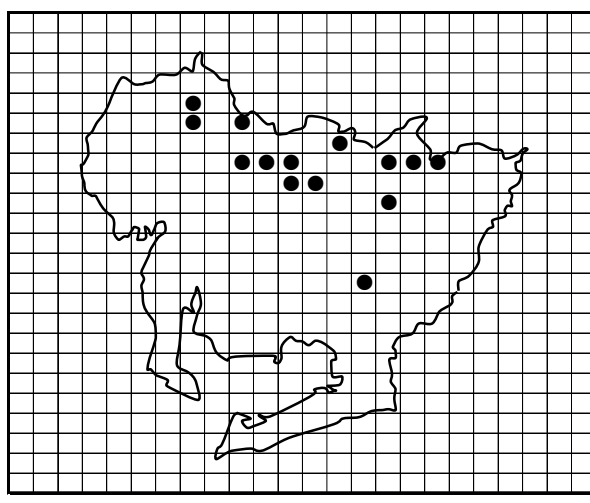
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

池、沼、水田などの止水域や流れの緩やかな小川。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

2000年以降の生息情報は数カ所に限られ、絶滅の危険性はランクより高い可能性がある。減少が顕著になったのが2000年代以降であることから、減少の要因としてオオクチバス等による外来魚による捕食圧、またはネオニコチノイド系農薬による影響を疑う必要がある。

### 【保全上の留意点】

現在の生息状況を詳しく調査し、現存生息地を保全する必要がある。オオクチバス、ブルーギル、コイなどの外来魚の駆除を積極的に行うとともに、減少の関連が疑われるネオニコチノイド系農薬の影響を調査し、その結果により必要な対処をする必要がある。

### 【引用文献】

佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫, (上): 204-231. 愛知県.

### 【関連文献】

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II), 514pp. 保育社.

佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説. 甲虫ニュース, (37) - (39).

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)